



## 夏休みの宿題は体験！

校長 五十嵐 俊子

もうすぐ夏休みです。長いお休みを充実したものにするために、たくさんの体験をしてほしいと思います。学校で学んだことを生かして、自分の目で見て自分の耳で聞いて、感性をフルに動かして、たくさんの体験をさせてあげてください。夏休みだからこそできる体験、机の上ではできない体験を通して、たくさん感じて考える機会を作ってあげてください。そして、その中で見つけたことを自分なりに追究して表現し、作品にまとめてください。町五小の今年の夏の宿題は体験です。それを絵日記(学年で決まった枚数)と自由研究等(なんでもOK)に表現してみてください。

今年の夏休みは、今までのように、与えられた課題や指示された学習内容をこなす宿題ではなく、主体性を発揮して、自ら興味をもったことを追究し、自分なりに工夫して表現する力を付ける課題に取り組んでもらいたいと考えています。

先日、文部科学省から出された政策ビジョンでは、Society5.0において、・・・\*Society3.0(工業社会)、Society4.0(情報社会)に続く、Society5.0(超スマート社会)・・・人間としての強みを発揮するために求められる力として次の3つが示されています。(1)文章や情報を正確に読み解き、対話する力、(2)科学的に思考・吟味し活用する力、(3)価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心、探究心です。町五小では、授業の中で、多様な子供達がともに学ぶ「対話」つまり、「学び合い」や「教え合い」を重視しています。しかし、授業の中だけでは限界があります。学んだことをもっと発展させて日常生活に活かすといったことを重視していく必要があります。夏休みは、これまでに学んだ知識や技能を、実際の場で活かすチャンスでもあります。生きて働く知識・技能として活用できる絶好のチャンスとも言えます。

そして、自由研究は、未知の状況での思考力・判断力・表現力を発揮するまたとない機会です。興味をもったことを自由にまとめてください。遠くに行かなくても、住んでいる玉川学園の自然にふれて発見したことや探究したことなど、テーマは自分で決めてください。そのまとめ方も自由です。絵にしたり作品にしたりパソコンでまとめたり・・・とにかく、自分のやりたいことを楽しんで取り組むことが大切です。

絵日記は、認知科学者の安西氏によると、子供が生きていく上で大切な要素が詰まっていると言われていています。まず、自分の心と向き合う力。何らかの感動があったからこそ、書こうとします。誰かと会っておしゃべりをしたほんのわずかな時間でも、相手の気持ちを受け止め、心の中で何かが動きます。うれしい、楽しい、悲しい、さびしい……。そして、書く力はおのずと読解力を含んでいます。自分の心にあるもの、発した言葉を自分の心で読み解き、実際に文字として書いたものを読み、誰が読んでくれるのかを想像し、伝わりやすい言葉を選びます。「書く力」は、実にさまざまな力で構成されているというのです。多角的に対象をとらえて一枚の絵にまとめていく作業も大切です。何を描きたいのか、どんな構図にするか、色は何を使うか、どう塗り重ねていくか。頭の中でさまざまな構想が浮かんで消え、消えては浮かぶ。そのプロセスが、子どもの心をさらに磨き上げてくれます。

宿題の意味が大きく変わってきている理由がご理解いただけたことと思います。夏休みは、このような意味で、基礎・基本の習得のためのドリルや漢字の書き取りをコツコツやること以上に、上記の通りこれから求められる能力に磨きをかける絶好のチャンスであることを、ご家庭でもご理解いただき、子供が飛躍的に成長する機会としていただければと念じています。

なお、保護者会の期間中(6月25日から7月6日)、アジアの子供たちの絵日記展も開催しております。子供たちにとって、他の国の子供たちの絵日記を見て学ぶいいチャンスになると思います。保護者のみなさまもぜひご覧ください。また、夏休みに入ってからすぐに実施する個人面談では、お子さんの1学期の学習状況や生活状況等を共有し、今後の指導や夏休みの過ごし方について共通理解を図りたいと思います。これからの時代に生きる子供たちに必要な主体性を育てていくために、学校とご家庭と一緒に連携を図っていききたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。